

記者発表（資料配布）				
月／日 （曜日）	担当課（室） 係名	TEL	発表者名 （担当者名）	その他 配布先
12月4日 （水）	義務教育課 初等・中学校教育班	内線 76502 ダイヤル 362-3772	秋田 大輔 （川添 悦子）	なし

ひょうごSDGsスクールアワード2024の決定

1 目的

子ども達が主体となって取り組んでいるSDGsの目標達成につながる活動に関し、特に先進的な取組を行っている学校園をひょうごSDGsスクールアワードとして顕彰し、広く県内の学校園にSDGsへの関心の普及啓発を図る。

2 ひょうごSDGsスクールアワード2024（表彰校：13校園／応募校：20校園）

(1) 未就学部門（最優秀賞1園、優秀賞2園）

最優秀賞 芦屋市立西蔵こども園

優秀賞 認定こども園七松幼稚園

ベアズガーデン国際自然こども園

(2) 小学校部門（最優秀賞1校、優秀賞3校）

最優秀賞 香美町立柴山小学校

優秀賞 加古川市立志方西小学校

たつの市立龍野小学校

淡路市立学習小学校

(3) 中学校部門（優秀賞2校）

優秀賞 姫路市立安富中学校

南あわじ市立沼島中学校

(4) 高等学校部門（最優秀賞1校、優秀賞2校）

最優秀賞 県立有馬高等学校

優秀賞 県立明石北高等学校

雲雀丘学園高等学校

(5) 特別支援学校部門（優秀賞1校）

優秀賞 県立赤穂特別支援学校

3 ひょうごSDGsスクールアワード2024表彰式について

(1) 趣旨

特に先進的な取組を行っている学校園を表彰する、ひょうごSDGsスクールアワード2024表彰式を行う。

(2) 期日

令和6年12月20日（金）

(3) 会場

兵庫県看護協会 ハーモニーホール

(4) 対象

ひょうごSDGsスクールアワード表彰校園の園児児童生徒代表、引率教職員

(5) 日程

○ひょうごSDGsスクールアワード表彰（最優秀賞、優秀賞）

○審査講評（ひょうごSDGsスクールアワード審査委員長）

ひょうごSDGsスクールアワード2024表彰校園について

表彰校の取組内容等

【最優秀賞】

未就学部門

○芦屋市立西蔵こども園

テーマ：「にしくらカラフルあじさいどおり」にあじさいを増やそう

今年度、5歳児が我が園の前身の新浜保育所に散歩に出かけた際、「このあじさいは皆に見てもらえなくてかわいそう」と呟いた。そこで一人一本園に持ち帰り、挿し木に挑戦し、昨年度5歳児が名付けた「にしくらカラフルあじさいどおり」に移植した。今後株の引っ越しも予定しており、あじさいプロジェクトが成功し、園周辺にあじさいが増えることを願っている。

小学校部門

○香美町立柴山小学校

テーマ：「わたしたちのまち柴山」の海 ～漂着物調査を通して考える～

自分たちの生活を支える地元の海でカヌー体験を行うことで、身の回りの環境や自然について知り、そのよさに気付いた。地域人材を講師として漂着物調査を行い、「柴山」の現在の環境について見つめ直したり、将来の環境を予測したりすることにより、持続可能な環境保全について考えている。

中学校部門

○該当校なし

高等学校部門

○県立有馬高等学校

テーマ：循環型農業（環境保全型農業）の実践と副産物の活用

放置竹林問題に取り組む中で、竹パウダーの貯蔵地で大量のカブトムシの幼虫を発見した。調査すると、竹パウダーで育てたカブトムシは小型化することや、カブトムシの幼虫の糞が活用できる可能性があることがわかった。活動をとおして、カブトムシとその糞の可能性を知り、この取組を普及させていくことで、地域全体で放置竹林問題に取り組める一手としたい。

特別支援学校部門

○該当校なし

【優秀賞】

未就学部門

○認定こども園七松幼稚園

テーマ：ピンクリボン運動から繋ぐコンポスト堆肥作りと寄附への取り組み

子どもたちはピンクリボン運動について知り、病気に苦しむ人を助けるために、他の学年と共にコンポスト堆肥を使い野菜を育て、それを販売して募金に繋げることを思いついた。子どもたちは地域の農家の方に会いに行き、野菜を自動販売機で売っている所を見学して自作の販売機を作り、保護者等に販売し、その収益を募金に繋げる活動を行った。

○ベアズガーデン国際自然こども園

テーマ：Think about what we can do

年長児が実際に田植えや園庭の野菜を育てる経験をとおして、食べ物のありがたみを知り、SDGsについて学びを広げ、自分たちができることを考えてポスターを作っている。また、そのポスターを園のいろいろな場所に貼ったり、年中以下の子どもたちの前で発表をしたりする活動を毎年行っており、今年度は、初めて園にコンポストを取り入れ、ゴミの削減にも取り組んだ。

小学校部門

○加古川市立志方西小学校

テーマ：わたしたちのため池を未来へ

東播磨地域を象徴する「ため池や水路網」の役割や地域の農業・歴史・文化・豊かな自然環境について、原大池での「樋抜の儀」や「水辺の安全学習」、「米づくり」などの地域と密着した活動をしている。その活動を通して、子どもたちの記憶にいつまでも残り、ふるさとの自然を大切にしようという心を育てている。

○たつの市立龍野小学校

テーマ：見る・聞く・話す！龍野学

全校で、まちの歴史文化資源を活用した体験的・体系的な学習に取り組んでいる。3年生は学校、4年生は龍野城、5年生は醤油醸造、6年生は重伝建地区を教材として探究的な活動を展開した。また、低学年は交流を重視し、1年生は龍野こども園5歳児と制作した雛飾りを「龍野ひなまつり」に出展し、2年生はまちの様子を身近な他者に伝えた。

○淡路市立学習小学校

テーマ：地球の未来を大切に ～全校生でつながろう 考えよう～

本校はこれまでリサイクル活動の一環として、児童会が中心となってエコキャップや空き缶のプルタブ回収運動に全校生で取り組んできた。今年度は、さらに校区である仮屋漁港周辺の海に焦点を当て、校区の海を守るために自分たちに何ができるかを考えて取り組んでいきたい。

中学校部門

○姫路市立安富中学校

テーマ：安富町花 あじさい復活プロジェクト

旧安富町の町花あじさいは町内のいたる場所に植栽されていた。しかしながら、近年はシカの食害により壊滅状態となっている。そこで、生徒たちが町のシンボルを復活させようと、「町花あじさい復活プロジェクト」を立ち上げた。また、EXP02025 共創チャレンジに登録し、地域・企業・行政等と協働して取り組んでいる。

○南あわじ市立沼島中学校

テーマ：沼島とともに 100年後の未来を想像して

人口減少が課題の沼島。沼島小中の子どもたちが「100年後の沼島」を想像し、地域の方から沼島の歴史や文化を学び、海岸清掃やナルトサワギク駆除活動、商品の製作やステッカーの配布、地元食材を使った給食メニューの開発、防災教育と被災地交流を通じた災害に強いまちづくりなど、地域に貢献していく活動を続けている。

高等学校部門

○県立明石北高等学校

テーマ：特定外来生物クビアカツヤカミキリから、ソメイヨシノを守る

2022年の発見当初から分布拡大防止のため、部員及び有志生徒も含め積極的に活動を行ってきた。行政・企業・専門機関などと協同して、本種の調査及びGISを用いた樹木マップの作成を行い、地域の生態系の維持に貢献した。また、近隣の小学生に本種の授業を行うことで、本校の目標の一つである「将来の理系人材の育成」の中心を担ってきた。

○雲雀丘学園高等学校

テーマ：「地域共生社会の実現」に向けた地域コミュニティの再建

地域の高齢者が集う場所「ふれあいテラス」の運営が、高齢化に伴い持続不可能な状態に陥っていた。同テラスの再建をきっかけに、高齢者のフレイル、地域行事への若い世代の参加不調などの地域課題に対して、高校生が解決案を提案・実践していくことで地域の活性化を目指すなど、多世代間交流による地域社会のレジリエンスの強化に取り組んでいる。

特別支援学校部門

○県立赤穂特別支援学校

テーマ：部活動～赤穂市の伝統工芸品である赤穂緞通～

平成27年度より、毎週火曜日の放課後に赤穂緞通の制作を行っている。赤穂緞通は、伝統工芸品であり、日本三大緞通の一つである。昨年度、一年半かけて作成した赤穂市の市章を部員が直接、赤穂市長に寄贈した。今年度は、一人一作品を作製中で、赤穂緞通と併せてミサンガ作りも行っている。